

# 丹生湖に魚増やそう

## 富岡中央RC 炭素繊維、木炭で浄化実験



炭素繊維を取り付けたロープを水中に入れる会員

富岡中央ロータリークラブは8日、富岡市の丹生湖で、炭素繊維と木炭で水質を浄化する「水環境保全実験」を始めた。釣りが人気の同湖のさらなる誘客に向け、淡水魚を増やすのが狙いだ。

会員や地元の丹生区長会、郷土愛友会のメンバーら約50人が、带状の炭素繊維(縦70センチ、横50センチ)を10枚取り付けた長さ約40メートルのロープ5本と、湖の底のへ

ドロを取り除く効果が、ある木炭180キを水中に沈めた。水質浄化に詳しい群馬高専の小島昭特命教授が実験に協力した。小島教授によると、1カ月で水の透明度が上がり、魚が炭素繊維に卵を産み始める。水中の汚れが吸着した木炭は肥料として再利用でき、「今後の環境浄化のモデルケースになる」という。

今後は会員が経過を観察し、小島教授が水の透明度や微生物を調べ、多胡利大会長は「多くの関係者の助けを借りて実験を継続し地域活性化につなげた」と話している。同クラブは、創立15周年記念事業として2年前に丹生湖での実験に着手。毎年場所を変えて水質の改善に取り組んでいる。

丹生湖はヘラブナやワカサギ釣りの名所として知られ、桜や新緑の季節は多くの観光客でにぎわう。地元住民の憩いの場にもなっ

いる。